

【あなたが楽しかったのならそれでいいです】

李標はハンサムであるだけでなく、なおかつ特別に面白い人である。とりわけ彼のあの特有のクールなユーモアはいつも人を吹き出させることができるのだ。

ある日、李標は自分の頭髪がやや長いと思ったので、職場付近の理髪店に散髪に行った。店の入り口に入ると、一人の若い娘が彼を迎えたが、全くやる気が無い感じであった。李標に希望する髪型を質問して、娘はすぐに忙しそうに散髪を始めた。髪を洗い、切り、パーマをかけ、ドライヤーで乾かし、全て落ち度はなかった。しかし、李標はやはりこれらの手順の細部からこの理髪師が新入りであることに気づいた。これは俺の頭を練習台にしているようなものだな、と彼は思った。しかし、彼女がそのように真面目に精を出すのを見て、李標は最終的に理髪師を代えることを求めず、目を閉じてこの女性理髪師が思うように力を発揮するのに任せた。最後に、彼女は作業を終え、李標の後ろに立って得意げに質問した。「どうですか」。李標は目を開け、鏡の中の自分を見てもどうすることもできず、小さな声で言った。「あなたが楽しかったのならそれでいいです」。